

新潟県

Niigata Construction Technology Center

2021 秋号

建設技術センターだより

市町村紹介コーナー

燕市

[下越エリア]

CONTENTS

■特集

- 02 市町村紹介コーナー
燕市
- 04 発注者支援事業紹介
- 05 「研究助成事業」募集のご案内
Made in 新潟 新技術展示・発表会
- 06 新潟県生コンクリート
品質管理監査会議

■センターINDEX

- 07 雪のことは・雪のころ
- 08 編集後記

08 新潟の地酒巡り

弥彦酒造

万葉から生きる村のテロワール



2022年、「大河津分水」は
通水100周年を迎えます。

多くの先人たちの尽力で建設された大河津分水。大河津分水ができてからは、
信濃川の氾濫も抑えられ、越後平野は豊かで恵みの多い土地に生まれ変わりました。



一般財団法人

新潟県建設技術センター

<https://www.niigata-ctc.or.jp/>

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18 TEL.025-267-4804 FAX.025-267-4854

☎0120-733-308



燕市

Tsubame



燕市のプロフィール

面積 / 110.96km²

人口 / 78,322人(令和3年7月末現在)

世帯数 / 30,377世帯(同上)

<https://www.city.tsubame.niigata.jp>

燕市は新潟県のほぼ中央に位置する、日本有数のモノづくりのまちです。スプーンやフォークの国内生産量では95%以上のシェアを誇り、フライパンや鍋、包丁、金ザルやボウル、樹脂製しゃもじなど、あらゆるキッチンツールの主要産地となっています。

北陸自動車道の三条燕インターチェンジや上越新幹線の燕三条駅などの高速交通機関が充実しており、首都圏からのアクセスも抜群!

日本さくらの名所100選に選ばれた「大河津分水桜並木」などの観光名所はもちろん、コシヒカリやトマトにキュウリ、背脂ラーメンに釜めしなど、「食」の魅力もたっぷりの、人と自然と産業が調和したまちです。

そして、これらすべては大河津分水の恵みということができます。

2022年、大河津分水は通水100周年を迎えます!

まだ大河津分水がなかった時代、信濃川は3年に1度の頻度で決壊し洪水を起こす「暴れ川」でした。良寛はこの洪水で苦しむ人々の心に寄り添う漢詩を残しています。また、困窮から脱却するため、農家の副業として推奨されたのが「和釘」づくりでした。和釘は、燕における金属加工産業の起源とされています。

そして、明治3(1870)年、ついに念願だった大河津分水の建設工事が始まります。工事は中止されることもありましたが、私塾長善館の門下生たちの活躍もあり、延べ1,000万人が従事したとされる東洋一の大工事を経て、大正11(1922)年に通水しました。大河津分水の完成により、越後平野は広大な美田に生まれ変わり、燕の金属加工産業も大きく発展することとなります。

2022年で通水100周年を迎える今でも、大河津分水は私たちの暮らしを守り続けてくれています。

燕市産業史料館

信濃川の氾濫による洪水で苦しめられ、農業だけでは生きていけない土地だったからこそ、燕は金属加工の一大産地になることができたといえます。館内では、江戸時代から現代まで連続と続く燕の産業の歴史を紹介しているほか、体験工房館ではタンブラー・銚目入れやぐい呑み製作などのモノづくり体験ができます。

【入館料】 大人：400円、小中学生・高校生：100円

【開館時間】 午前9時～午後4時30分

【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

【問い合わせ】 〒959-1263 新潟県燕市大曲4330-1 TEL：0256-63-7666



燕市長善館史料館

長善館は天保4(1833)年、鈴木 文臺(ぶんたい)によって創設された私塾。約80年間にわたり、1,000人を超える塾生を輩出し、「西の松下村塾、東の長善館」と称されました。展示室には、大河津分水の建設に尽力した門下生などの多彩な功績が紹介されています。

【入館料】 一般：100円、小中学生・高校生：50円

【開館時間】 午前9時～午後4時30分

【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

【問い合わせ】 〒959-0227 新潟県燕市粟生津97番地 TEL：0256-93-5400



燕市分水良寛史料館

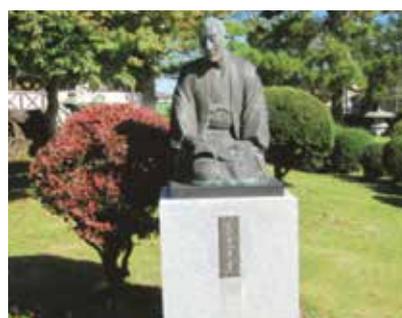
自然を愛し、人々を愛した禅僧、良寛の足跡を今に伝える史料館。約30年間、燕市国上山で過ごした良寛は、人間愛と芸術性の高い詩歌や書を残し、今でも多くの現代人を魅了しています。良寛の志は、鈴木 文臺に継がれ私塾開学に大きな影響を与えました。館内には五合庵・乙子神社草庵時代の遺墨、関係資料などを展示しています。

【入館料】 大人：300円、学生：200円、小中学生：100円

【開館時間】 午前9時～午後4時30分

【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始

【問い合わせ】 〒959-0181 新潟県燕市上諏訪9番9号 TEL：0256-97-2428





一般国道403号三条北道路 下条川橋梁 桁製作架設工事

工事概要

現道の一般国道403号は、集中する交通のために慢性的な渋滞が発生し、様々な社会経済活動に支障をきたしています。このことから、新潟県では一般国道403号改築事業を進めています。そのうち三条地域振興局管内の一般国道403号改築事業の三条北バイパスは、南蒲原郡田上町羽生田から三条市塚野目までの延長8.32kmを整備する計画となっています。当工事は、加茂市大字下条地内に計画されている一般国道403号三条北バイパスと一級河川下条川との交差位置に架橋される「新下条川大橋」の桁製作・架設工事です。

工事内容

- 工事名／ 令和元年度 点国緊 第0036-04-03-01号
 日403号三条北道路 下条川橋梁 桁製作架設工事
- 工期／ 令和元年10月～令和3年1月
- 発注者／ 新潟県 三条地域振興局 地域整備部 道路課
- 工事内容／ 上部工 1式(橋長L=38.9m 鋼単純非合成鉄桁)
 桁架設工 1式(自走式クレーン一括架設)

位置図

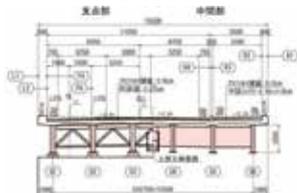


図面

側面図



断面図



架設状況



立会状況



竣工



現場技術員 から一言

現場技術員 土田 純

当工事は鉄桁を工場で作製し、現場へ運搬し架設した後、ボルト連結部の現場塗装を行う工事でした。

現場技術員として特に留意した点として、塗装は施工の良否が防食性能や耐久性に大きな影響を与えることから、品質を確保するために施工時の現場立会において気象条件や塗膜厚、塗り重ね間隔等を適切に管理した施工がなされていることを把握しました。

今後も発注者支援業務を通し、地域社会の発展に貢献していきたいと思っております。

研究助成事業 募集のご案内

新潟県が抱える地域特有の課題解決を図ることや地域活性化に資することなどを目的として、様々な調査研究、活動を行っている研究者及び団体等を支援する「研究助成事業」を実施しています。

当センターでは、この事業を通じて私たちが暮らす新潟県が実りある未来を実現するために「地域社会の安全・安心」と「地域社会の健全な発展」をキーワードに今後も幅広く地域に貢献していきたいと考えています。

今年度も令和3年11月15日(月)から令和4年1月28日(金)までを募集期間としていますので、奮ってご応募下さい。



令和4年度研究助成事業
**助成申請
受付開始!**

募集要項等の詳細は、
当センターホームページを
ご覧下さい。



<https://www.niigata-ctc.or.jp/kyoryoku/jyoseijigyou.html>

実績(令和2年度募集、令和3年度助成)

調査研究(3件)

- 新潟大学
・新潟県沿岸部を対象とした飛来塩分量推定手法の構築
・機械学習を用いた漏水現象が発生する上下水道の非破壊状態評価法の開発(その2)
・比抵抗マッピングによる河川の河道変遷と洪水履歴の復元

活動(11件)

- にいがた土木女子会議(NDJ)
・建設産業における女性定着支援に関する活動
- (特非)徳合ふるさとの会
・環境整備と野生動物との共生に関する事業
- てらどまり若者会議～波音～
・寺泊港を活用した地域活性化に関する事業
- (特非)七福の恵
・既存林道を活用したクロスカントリースキーによる交流人口拡大に関する事業
- 長生橋を愛する会
・長生橋ライトアップの充実と長生橋フォーラム開催事業
- 五日町森林公園管理組合
・地域住民による「学びの里山」整備事業
- 糸魚川商工会議所 糸魚川産業創造プラットフォーム美山プロジェクト
・美山公園縄文文化のアップデートによる活用促進に関する事業
- 新潟県コンクリート診断士会
・新潟県内のコンクリート構造物に発生している損傷についての診断技術向上と知識普及に関する事業
- 里山イノベーション研究会
・ブナの森活用による里山活性化事業
- 新潟県立加茂農林高等学校
・ホテルが舞う故郷の再生に関する事業
- 長岡技術科学大学
・最新技術を活用した海岸清掃と学びを提供する活動に関する事業



今年度は
これらの
取り組みを
支援して
います!

Made in 新潟 新技術 展示・発表会

「Made in 新潟 新技術普及・活用制度」に登録されている、新潟県内の企業が開発した土木・建設分野の新技術について、その活用事例や実物の展示・発表会を行います。

詳しくは、Made in 新潟 ホームページ
<http://www.shingijutu-niigata.jp/>
をご参照下さい。

開催日 11月25日(木)

会場 朱鷺メッセ メインホール



令和3年度
第3回
クリエイティブ
セミナーも
同時開催予定

新潟県生コンクリート 品質管理監査会議について

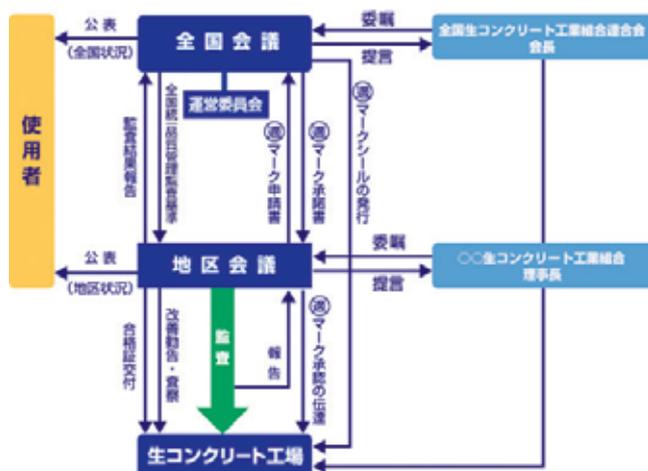
新潟県生コンクリート品質管理監査会議とは

全国生コンクリート品質管理監査会議が策定した全国統一品質管理基準および適合判定基準に従って、各都道府県単位に設置された産・官・学によって構成された生コンクリート品質管理監査会議(地区会議)のことをいいます。

目的

JISの審査とは別に毎年度、生コンクリート工場の品質管理状況を監査し、各工場が適正な品質管理のもとに製品を製造・供給していることを評価し、社会・生活基盤施設の基幹材料である生コンクリートの品質の維持および信頼性の確保に寄与することを目的としています。

◆品質管理監査会議のしくみ



◆地区会議の主な審議事項

- ①立入監査の結果による合否の判定
- ②合格工場に対する合格証の交付
- ③改善を要する工場への勧告および改善の確認
- ④査察(無通告での検査)の実施および合否の判定
- ⑤適マークの使用承認申請

出典:全国生コンクリート品質管理監査会議HP
<http://www.hinkankaigi.jp/index.html>

◆適マーク

地区会議から申請された合格工場に対し、全国統一の基準で適合性を審議し、適合した工場には適マークの使用承認が地区会議を通じて通知されます。なお、適マークの有効期間は、当該監査の次年度1年間と規定されています。

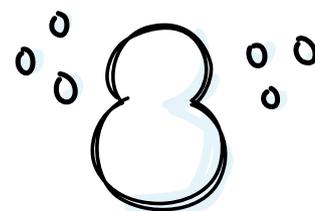
◆指定試験機関

当センターは、豊富な試験業務の経験と高い試験技術の信頼を得て、新潟県生コンクリート品質管理監査会議における圧縮試験業務を実施する試験機関として指定されています。

◆試験写真



雪のことは・雪のころ



2020年～21年の大雪災害(その3)

国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 上石 勲

前回、前々回に続いて、今冬は、2020年～21冬期にかけての新潟県内での大雪の状況です。

山雪と里雪

図1左は2020年12月関越道で2000台以上の車が滞留した12月15日の天気図で、気象庁湯沢観測点で24時間降雪量113cmという集中的な降雪がありました。低気圧が千島列島で960hpまで発達し、大陸には優勢な高気圧があって、典型的な山雪タイプの強い西高東低の気圧配置でした。図1右は、新潟県上越地方で集中的な降雪があった2021年1月9日の天気図で、気象庁高田観測点では、24時間降雪量103cm、72時間降雪量178cmと観測史上1位の記録となりました。天気図を見ると図1左に比較して等圧線の間隔は広くしかも蛇行しており、典型的な里雪の気圧配置でした。これに匹敵するような過去の大雪は、昭和59年、60年、61年の3年続きの豪雪です。35年前の1986(昭和61)年豪雪では、高田の3日間の日降雪量の合計では212cmを記録しています。現在の日降雪量は時間積雪深差のプラスの合計値を足して求めており、雪尺で測っていた35年前の記録とは単純には比較できませんが、今年の大雪も昭和の3年続きの豪雪に匹敵する雪だったことがわかります。高田測候所で日降雪量104cmを記録した昭和61年1月9日の天気図(図2)を見ると図1右と似ており、里雪型の気圧配置だったことがわかります。

図3は35年前と今年の実家の様子と雪捨て場となった関川河川敷雪捨て場の写真です。毎週のように雪かきをしていたことは変わりませんが、当時私がまだ20代。35年経過した今年の雪かきが肉体的にも精神的にも大きな負担となりました。関川の河川敷の雪も断然今年の方が多ようです。雪害の研究や新技術開発はまだこれからと強く感じております。

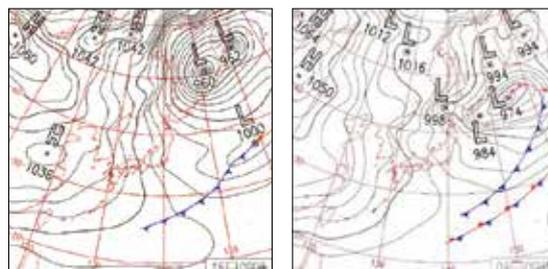


図1 2020年12月15日(山雪)と2021年1月9日(里雪)の天気図



図2 1986年1月9日の天気図



図3 今年と35年前の上越市の実家と関川河川敷の雪捨て場

特集

新潟の地酒巡り

vol.19

全国的にも評価が高い新潟の清酒。
そのおいしさの秘密を紹介します。

弥彦村の酒蔵

弥彦酒造

多くの石数を造らず必ず精釀を期す

万葉の時代から続く神様と生きる村、弥彦村。御神体である弥彦山の伏流水は粒子がきめ細かく、長期低温発酵・厳寒仕込に理想的な超軟水。この恵まれた水を生かし、「スツと入り、口に広がり、スツと消える余韻」で料理とマリアージュする日本酒を醸し続けております。



代表取締役社長
山本 栄一



1.『こしのはくせつ 極-きわみ』大吟醸の如く極めた普通酒の最高峰。長期低温完熟発酵・無濾過・瓶火入。普通酒の域を遥かに超えた味わいと香りが人気です。2.『彌彦愛国 純米吟醸』幻の米「愛国」を復活させ、弥彦山の野生酵母を使用し、ラベルは村の手漉き和紙に村在住の書家が全量手書き。ふくよかで芳醇な旨みと独特な酸味を持つ旨口酒。3.『彌彦YAHIKO 純米大吟醸』弥彦村産山田錦100%使用。38%精米。それは蔵人の酒造りの矜持。造るのではなく導き醸す。柔軟かつ潤沢、崇高な香りと深く奥行きのある味わい。



弥彦酒造株式会社
〒959-0321
新潟県西蒲原郡弥彦村上泉1830-1
TEL. 0256-94-3100
FAX. 0256-94-4990
<http://www.yahiko-shuzo.jp/>

万葉から生きる村のテロワール

眼下に日本海と新潟平野を一望する越後の名峰、弥彦山。その麓、越後一宮彌彦神社など、まさに自然と神様(おやひこさま)の恩恵を授かった山麓「泉」の地に弥彦酒造はございます。

天保九年(1838年)創業。嘉永元年に初代が独自の酒造法「泉流醸造法」を確立。「~その色淡、その味類、耐久腐せざる~」を特徴とした当時画期的な醸造法とされており、県内外に多くの門人を輩出してまいりました。その名の通り、湧水の地に酒蔵を構え、代々実直な酒造りを伝えております。

酒米の味わいにも実直でありたい。新潟県で初めて山田錦の栽培に成功した弥彦村。それ以外にも幻の米「愛国」を復活させるなど地元のテロワールを大切にすため、作付制限で稲本来の力強さを引き出し酒米としています。大切な酒米を割ることなく仕込みたいとの想いから全量手研ぎ、伝統的な和竈で理想的な外硬内軟の蒸米を生み出しています。

一般に酒造りの基本を『一麴(いちこうじ)、二酛(にもと)、三造り(さんつくり)』と表しますが、当蔵は『一から十までは麴、十一が酛、十二が造り』という麴の工程を手作業で丁寧に多段階にした独自の製法をとっています。人よりも「麴にとって」最高の状態で麴造りだからこそ、辿りつける凜としたきれいな酒。

その味わいを余すところなくお届けするため、普通酒はサーマルタンクでマイナス3度貯蔵。吟醸以上は瓶火入れ・瓶貯蔵。貯蔵スペースの効率化からタンク貯蔵が主流の中でも、品質を犠牲にしない瓶貯蔵を貫いています。

石数が少ないからこそ必ず精釀を。愚直ではなく正直に、たゆまざる努力を続ける。酒の美味しさを余すことなくお届けしたい。それが弥彦酒造の誠意です。

編集後記

山の紅葉も色つき始め、秋風を感じる穏やかで過ごしやすい季節になりました。時節柄、紅葉狩りや豊かな秋の味覚を堪能したいものですね。

今号の広報誌にご寄稿いただいた燕市様、上石様、弥彦酒造様、皆様方には厚くお礼申し上げます。

この広報誌「センターだより」の情報発信により、当センターの地域づくりサポートに繋がってきたい所存です。ご意見等がございましたらお聞かせいただければ幸いです。

編集委員 試験部 山口 敏彦